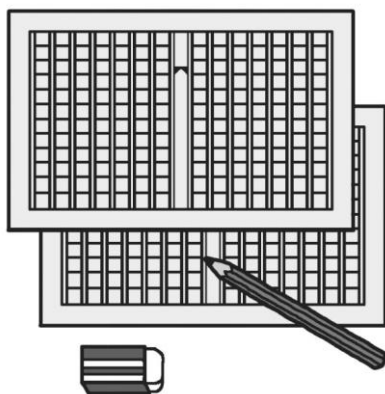


# 法に関する作文コンクール

## 受賞作品集 (平成25年度)



横浜弁護士会 法教育委員会

# 目次

法に関する作文コンクール テーマ ..... P 1

## 中学生の部

【最優秀賞】 自分らしく生きるために  
～「表現の自由」から考えたこと～ ..... P 2  
鎌倉市立大船中学校一年 熊木 ひと美

【優秀賞】 「平等」な社会の実現に向けて ..... P 4  
横浜市立洋光台第一中学校三年 野村 菜名子

## 高校生の部

【優秀賞】 より良い結論のために ..... P 6  
神奈川県立海老名高等学校一年 伊藤 秀瑚

【優秀賞】 ものごとの決め方について ..... P 8  
神奈川県立海老名高等学校一年 内田 純恋

【優秀賞】 平等とは何か? ..... P 10  
慶應義塾高等学校一年 丸山 智生

## 【テーマ1】 「表現の自由について」

憲法21条では次のように定められています。

「第21条

第1項 集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する。

第2項 検閲は、これをしてはならない。通信の秘密は、これを侵してはならない。」

これは「表現の自由」を定めたものです。

そもそも全ての国民は個人として尊重され、国民の自由は、公共の福祉に反しない限り、最大限尊重されます（自由権）。

中でも表現の自由は、(1)これが保障されることであらゆる情報が社会に流れ、そのことが人間の成長や人格形成に重要な役割を果たすこと、(2)国民が国会議員などの代表者を選ぶときに最もふさわしい人を選ぶためには表現の自由が保障されていなければならないことから、最も大切な人権の一つとされています。

憲法21条では、集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由が国民に保障されていますが、他方で、人の名誉を傷つけたり、プライバシーを侵害するような表現は許されないものとして法律で禁止されています。

このような表現の自由はどこまで保障されるべきでしょうか。自分の身近な例を挙げながら、あなたの考えを論じて下さい。

## 【テーマ2】 「ものごとの決め方について」

AとBが次のような議論をしています。あなたの意見はどうですか。自分の身近な事例を交えながら論じて下さい。

A「人はそれぞれ意見が違うけど、一人ひとりの意見は大切にすべきだよ。みんなの意見を公正に取り入れるには、全員の意見を聞いて、その中でどの意見が一番いいかみんながよく話し合って議論すべきだよ。どうしても決まらなければ最後は多数決で決めればいいよね」

B「そんなのは理想だよ。一人ひとりの意見を聞いていたら、早く決めなければいけないことが決められなくなり、かえって悪い結果になることもあるよ。正しい意見を持っている人がうまく意見を言えない場合もある。そして意見がまとまらずに多数決になったら、結局は少数者の意見が採用されなかったことになるじゃない。それなら優秀なリーダーを決めて、その人に何が最善かを検討してもらい、結論を任せた方が効率的じゃないかなあ」

## 【テーマ3】 「平等について」

Cくんが次のようにぼやいています。あなたの意見はどうですか。自分に身近な事例を交えながら論じて下さい。

C「平等って言うけど僕は生まれつき頭も良くないし運動もできない。人は生まれながらに不平等なんだから、みんな平等だって言われても納得できないね。努力すればいいって言うけど、努力してもできない人はどうすればいいの。今日電車に乗ったとき、部活で疲れたから座りたかったのに、優先席しか空いていなかったから我慢して座らなかった。この間は電車に乗ろうとしたら、女性専用車だと言われて慌てて別の車両に移った。これって平等なのかなあ。平等って一体何だろう」

## 自分らしく生きるために ～「表現の自由」から考えたこと～

鎌倉市立大船中学校一年 熊木 ひと美

「表現の自由」とは何か・・・今年の夏休み、このことについて考える私に、二つの大きな社会問題があった。一つは、新聞に投稿した方が嫌がらせを受けたこと、二つ目は、「はだしのゲン」が松江市の小中学校で閉架扱いされたことだ。

「投稿者に嫌がらせ」

六月も終わりになったころ新聞を読んでいて、驚くような見出しに目がいった。私は読書をしたり、新聞を読んだり、そして文章を書いたりすることが好きだ。人間にとって一日は二十四時間と限られているが、読んだり書いたりすることで、知らない世界を見つめ、考えることが出来る。視野が広がる。多くの考えに自由にふれることで、自分の考えを見直すきっかけになったり、あるいは深めたり、自信をもったりする機会になる。

この記事を読んで「これは陰湿ないじめ、一体誰がこんなことを・・・」という怒りがこみ上げてきた。新聞に投書をした方の氏名から、何らかの手段で、その方の詳しい住所や電話番号を割り出し、インターネット上に無断掲載をする。結果、職場や自宅に脅迫行為を受けたり、無言電話があったり、不審な郵便物が届いたりなどの嫌がらせがあった。卑劣で許されない行為だと私は思う。

この問題で、最も恥ずべき行為は二つある。投書された方の個人情報や、インターネット上に書き込んだ行為だ。そして、その情報を悪用して、嫌がらせをした行為だ。どういうつもりでそのような行為をしたのか。面白半分なのか、自分の考えに反するからなのか・・・わからないが、意見があるならば、正々堂々ときちんとその反対意見を表明すればいい。憲法で保障された表現の自由とは、そうした双方の意見を自由に述べる事が出来ることであるはずだ。人はそれぞれ違う。お互いの違いを認め合うことで、共によりよく生きていくことが出来る。

私の記憶が正しければ、以前読んだことのある本に「私はあなたの意見には反対だが、あなたがそれを発言する自由を、私は命をかけても守る」という言葉があった。表現の自由は、それぞれの意見が尊重され、幸せを求め生きていくことにつながっていく。この事件をきっかけに、自分の意見を控える人が増えてしまうことになると、歴史で学んだ戦時中の言論・思想統制が復活するようで怖い。

もう一つは「はだしのゲン」の表現をめぐる問題だ。私たちは日本が戦争で大変だった頃の様子を、残された資料や戦禍をくぐり抜けた方々の話からしか知ることが出来ない。長崎出身の私の母は、小学生の頃から戦争を経験した、そして被爆をした先生方より、折に触れ、当時の話を聴いて育ったそう。夏休み中の八月九日は登校日で、平和について学び考えたと言っていた。ある先生は被爆により大火傷を負ったものの、しばらくは治療の手立てもなく、皮膚にはウジ虫がわいていたこと。そのために耳が形を失ってしまったが、こうして命があることに感謝している、だからこそ平和を守らなくてはならないと話していたこと。母は小学生時代の話をはっきりと覚えていて、私にも聴かせてくれた。

「はだしのゲン」の表現が過激という指摘をした大人は、どれほど戦争や原爆の恐ろしさを本当に

理解しているのだろうか。閉架にするという行為は、私たちが自由に手に取って読む機会がなくなるということだ。その機会がなくなるということは、戦争や平和について学び考えるための機会がなくなるということにつながる。読む側の小・中学校の感性も何だか信用されていないようで腹立たしい。表現の自由が保障されることで、あらゆる情報が社会に流れ、そのことが人間の成長や人格形成に重要な役割を果たすこと…ならば、検閲ともとれるような大人の行動が、私には理解できなかった。

八月の終わりには、閉架が取り消されたが、なんとなくすっきりしない。取り消されたこと自体は喜ぶべきことだが、取り消す理由が「事務手続きの問題」だったからだ。表現の自由が犯されるかもしれない問題だったにも関わらず、手続きの問題とされてしまった。

詩人ハイネの言葉に「本を焼く者は、ついには人間を焼くようになる」とある。そんな時代に未来はない。

未来を生きる私たちは、自分らしく生きる権利がある。そのための憲法、表現の自由は大切である  
と考える。

## 「平等」な社会の実現に向けて

横浜市立洋光台第一中学校三年 野村 菜名子

C君の考える「平等」について自分の意見を述べたいと思う。

「平等と言うけれど僕は生まれつき頭も良くないし運動もできない。人は生まれながら不平等だ」C君はこのように話している。確かに人は一人ひとり違う。性別の差、年齢の差や国籍の違いであったり、C君の言うような能力の差であったり、障害を持っているかいないかなど、様々である。だがそれは全て「不平等」なのだろうか。人が生まれながらそれぞれ違うという事と、それが不平等という事は、違うと思う。私は、異なる人同士がお互いの立場になって、お互いに尊重し合う事が本当の意味での平等ではないかと考える。

以前あった事だが、私が電車に乗っていた時に、お腹の大きい妊婦さんが乗ってきた事がある。その時、近くに座っていた年配の女性がすぐに妊婦さんに席を譲り、優しく話しかけていた。この席は優先席ではなく、普通の席だった。この光景が、私にはとても自然な事のように見えた。この年配の方はおそらく、自分が若かった頃の経験から自然にとった行動だったのかもしれないが、本来このように全ての人がお互いを尊重する事が出来れば、優先席は必要無いと思う。言い換えれば全ての席が優先席と言えるからだ。

だが現実には違う。大人に限らず、子供も含めて席を譲らない人が多い。だから優先席が必要なのだと思う。ここでC君の意見を見ると、優先席に座らなかった事に対して不満を持っているが、たとえ疲れていたとしても、立って電車に乗る事が難しい人の事を考えればこの考えはおかしいと思う。

また、C君は女性専用車について不平等だと主張しているが、電車が混んでいる時に、多くの女性が痴漢にあって傷ついている事から女性専用車が出来たという事を理解しているのだろうか。優先席や女性専用車というのは、ほとんどの人が必要だと思い、納得する中で出来たのだと思う。

改めて平等という意味について考えてみると、世の中には不平等な事があまりにも多い事に気がつく。例えば、日本における参政権の歴史を振り返ると、一九二五年に認められた普通選挙は男性のみで、女性は一九四六年まで認められなかった。また、アフリカの一部の国では、現在でも土地の所有権のような財産を持つ権利が女性には認められていない国があると、父から聞いた。もしそのような国に自分が生まれていたらどう思うだろう。C君を含め、私達日本人からすれば信じられない事なのではないだろうか。才能や努力を発揮しても結果を得ることが出来ない社会こそ不平等であると思う。

このような性の違いによる差別以外にも世の中には様々な差別があるが、これを無くしていくためには、全ての人がその矛盾に気づき、改善しようと思う事が大切である。

全ての人は、生まれながらにして生きていく権利を持っている。この当然の事を世の中で実現していくためには、相手の立場に立って判断し、行動する事が大事だと思う。しかし全員が全員その事を実行出来るとは限らないため、優先席のような一定のルールが必要である。

確かに、人は十人十色と言われるように持っている価値観も違うし、主義主張も違う。世界では、宗教や考え方の違いから未だに戦争が続いている国もある。この中で、お互いを尊重し合う平等な社会を作り上げていくにはどうしたら良いのだろうか。私達に出来る事は、お互いが違うという事を受け止めて、お互いを助け合う事を当然のように出来る社会を作り上げる事だと思う。

そのためには、自分を中心に考えるのではなく、全体が幸せになる事を考えて行動すべきである。

まだまだ勉強不足だが、まだ私の知らないところで多くの「不平等」があるのではないかと感じている。気づかずに、C君のような誤った考え方を自分が思わないように、今後も勉強を重ねて努力していきたい。まずは、電車ではたとえ優先席でなくても、真っ先に席を譲る事が出来るような人間になりたい。

## より良い結論のために

神奈川県立海老名高等学校一年 伊藤 秀瑚

物事の決め方の中の二つについて考えてみたい。一つ目は全員が意見を出し、話し合っただけで決める方法。二つ目は一人の優秀なリーダーまたは複数の代表者を決めてその人達に結論を任せる方法だ。ではこの二つの方法はどちらがより適切なのだろうか。

まず、私は両者の利点と欠点について考えてみた。前者の利点としては全員が話し合いに参加するため、一人ひとりの意見が大切にされる点がある。欠点には結論を出すまでに時間がかかりすぎてしまう点がある。後者には結論を出すまでに時間がかからないという利点がある。しかし、その反面少人数で決定するため、全員の意見が反映されないことや、判断が間違っている可能性があるという欠点がある。

私は両者の利点と欠点を踏まえた上でこの二つに優劣をつけるのではなく、両者を適宜使い分けることが重要だと考える。なぜならこの二つを使うのに適切な状況というのは、話し合う人数やコミュニティの規模によって左右されるものだと思うからだ。例えば、数人の友人で物事を決める時。この時に一人のリーダーが一人の判断で物事をどんどん決めてしまうのは適切でない。たった数人の小さな集団で物事を決める際には、全員が意見を出す方が最善の結論につながる可能性が大きい。これは前者にあたる。別の場合では、国や市の政治の問題を話し合う時。この際に市民や国民全員で話し合うということは意見がまとまらず、最善の結論につながりにくい。また、時間もかかる。それ以前に住民全体で話し合うということは不可能である。そのための適切な方法ではない。この場合には一人の優秀なリーダーに一任する、または複数の代表者を選出して結論を任せる方法が適切である。これは後者にあたる。このように、両者を状況によって使い分けるということが皆が納得するような結論を出す上では大切なことなのではないだろうか。そしてそれは話し合いの人数やコミュニティの規模に影響する。

また私は、この両者の方法は話し合う議題によっても使い分けるべきだと考える。議題が緊急性のあるものなのか、じっくり考えるべきものなのか、によっても使い分けるべきではないだろうか。ここで二つの議題について考えてみる。まず一つ目は国家全体に関わるような重大な議題。最近の話題でいえば憲法改正問題が挙げられる。このような問題は国家のあり方を決める議題であり、緊急性はなくむしろじっくり話し合う必要がある。また、もし一人に一任した場合昔の日本のように戦争に走ってしまう危険もはらんでいる。そのため、このような問題は国民全体を巻きこんだ議論が必要だと考える。そのため、前者のような方法が適切である。次に他方は、人命に関わる災害対処問題のような緊急性のある問題。例えば2011年に起きた東日本大震災の原発事故である。このような事故が起きた際、前者のような方法をとってはいは決定までに時間がかかる。すると迅速な対応ができず、大切な人命が失われてしまう可能性がある。また、前者のような方法では刻々と変化する現場の状況に毎回会議を開いては対応することができない。そのため、後者のような方法で行うのが適切であると考えられる。このように議題によっても決め方の方法というのは変えるべきなのではないだろうか。

私はここまで物事の決め方について色々考えてきた。その中でやはり、物事の決め方は話し合いの規模や議題に影響されると考える。よって状況を見極めて二つの方法を使い分ける事のできる力というのが私たちには必要なのだと思う。この二つを使い分けることで皆が納得するような良い結論につながるのではないだろうか。



また先に述べた国家に関わる大きな問題については多くの国民が積極的に議論に参加することが必要なのではないかと思う。どんなに適切な物事の決め方でも話し合いに参加する人がいなければ話し合いは成立しない。これは決め方以前の問題ではないだろうか。状況に合った適切な話し合いの方法を選ぶ。そして積極的に話し合いに参加してお互いに意見を交換する。これが皆が幸せになれる結論への近道なのだと私は思う。私はこれからの日本を背負っていく世代としてこれらのことができるような力を身につけていきたい。

## ものごとの決め方について

神奈川県立海老名高等学校一年 内田 純恋

AとBの議論の中で、Aは「全員の意見を大切に、話し合いで決まらなければ多数決」と言い、BはAの意見に対し、「それは理想であり、デメリットも多いので1人のリーダーに結論を任せの方が効率的」と意見を言っています。私は、AとB、どちらの意見も間違っていないと思います。

まず、Bの意見の中の、「リーダーを決める」ということは、とても重要なことです。ただし、何かを決めるときに必要なのは、「結論を任せる」ためのリーダーではなく、「仕切り、まとめる」ためのリーダーです。

実際に、私もクラスで意見を決めなければならないときがありますが、仕切り・まとめが上手なリーダーがいると、本当に話し合いがスムーズに進み、意見もすっきりと決まります。

逆に、1人のリーダーに結論を任せてしまえば、リーダーと同じ意見の人は良いかもしれませんが、他の意見を持った人が納得できないことは分かりきっています。これこそ、結論が出たとは言えないのではないのでしょうか。

何かを決めるときには、それに関わる人達で話し合って結論を出すことを大前提にしなければならないと考えます。

次に、Aの意見の中の、「決まらなければ多数決」という意見についてですが、これは少し違うのではないかと考えます。確かに「多数決」という方法はいちばん反対意見を少なく済ますことができる方法であるとは思いますが、Bの言うように、多数決だけで決定してしまうと、やはり少数意見が採用されないということになります。

私は、クラスの話し合いのときに前に立って話すことがあるので、時間がなくて多数決で決めてしまうこともあります。でも、そういうときにいつも思うことがあります。それは、「ここまで話し合っ、こんなにたくさんの意見が出たのに、この中から1つだけを選ばなければいけないのか・・・」ということです。実際に、少数派の文句が聞こえることも多々あります。

そこで私は、意見を絞るのではなく、ひとまとめにすれば良いのではないかと考えました。

私の考えは、まず、多数決で決まった意見を、それで結論にするのではなくて、ベースとして考えて、その上から、余っている少数派の意見の内の良いところを取り出して、少しずつ組み合わせていく、ということです。

それぞれの意見を、対立させるものとして見るのではなく、融合させるものとして見るのです。

この方法で結論を出すには、たくさんの時間を必要としてしまうでしょう。しかし、より良い結論を出すことを、「時間がかかるから」という理由だけで妥協してしまうのは、非常にもったいないことだと思います。イエスかノーかのような、はっきりとした結論を出さなければいけないとき以外には、このような決め方をすべきだと思います。

ただ、時間がかかりすぎても効率が悪くなってしまいますので、ある程度意見が出たところで多数決を取り、どの意見にも賛成しなかった人がいれば、その人からも意見を聞く、というようにすると、それほど時間はかからないと思います。

このように、ものごとを決めるときにはあたり前のことですが、公正と効率を考えながら決めなけれ

ばなりません。でも、その「あたり前」こそがものごとを決める話し合いを更に難しくしてしまっているように思います。人は、1人ひとり価値観が異なるので、公正と効率という課題はいつまでもなくならないでしょう。

全ての人が納得する意見を出すのは難しいと思いますが、それでもできるだけ多くの意見を取り入れるには、やはり、1人ひとりがどのようなことを決めるのか、しっかり理解した上で話し合いに参加することが、いちばん大切なことだと考えます。

## 平等とは何か？

慶應義塾高等学校一年 丸山 智生

「平等」という言葉は、古くからある言葉だ。物心ついたときには、「おやつの量はお兄ちゃんも僕もビョウドウ」とか自分自身、言っていたらしい。だから、生まれながらにして「ビョウドウ」については何度も考えて自分の言葉にしてきた。

C君は「平等って言うけど僕は生まれつき頭もよくないし運動もできない。人は生まれながらに不平等なんだから、みんな平等だって言われても納得できないね」と言う。しかし、本当にそうだろうか。平等とは何か、よりも、みんな何において平等なのか、問題だと思う。

C君はまた「努力すればいいって言うけど、努力してもできない人はどうすればいいの。今日電車に乗ったとき、部活で疲れたから座りたかったのに、優先席しか空いていなかったから我慢して座らなかった。この間は電車に乗ろうとしたら、女性専用車だと言われて慌てて別の車両に移った。これって平等なのかなあ。平等って一体何だろう」と問題提起している。では、理想的な「平等」とは何なのだろうか。

僕が唱えるのは「機会の平等」だ。先のケーキを例にするなら、食べられる可能性が等しくあることを「平等」とする。男性が女性専用車に乗って、車両を変えるのはしょうがないことだが、それも乗る前に普通車両を探せばよい。この「平等」は、可能であるだけで、できるとは限らない。プロ野球選手になる人もアナウンサーになる人も努力している。達成する可能性がわずかしかなくても、努力すればできるかもしれない状態を「平等」とする。これは、どんな人も生まれながらにして平等だ。

一方、彼は努力してもできないこと、女性専用車や優先席などの「束縛」に惑わされることを「不平等」だとする。したいことを実現して、乗りたい電車に乗って、座りたい席に座れることを「平等」としている。いわば、「結果の平等」である。ケーキの例では、食べられる量が等しいことが平等視される。

しかし、これは「ケーキ以外」でも可能であろうか。

例えばAさんは高級住宅街、田園調布に住みたかった、とする。そして、それを知ったBさんも同じことを考えた。「平等」だから彼も住むことができた。さらに一人、二人、そして十人、百人と田園調布に住みたい人が殺到したとする。「田園調布」は空き物件の数が足りなくなる。すると、少なからず「田園調布」に住めなくなる人が出てくるのだ。

だから、僕が唱えているのは、「機会の平等」だ。「結果の平等」にも時に不平等な結果の可能性があるので。

前者の「平等」では可能性が平等であって、後者の「平等」のように結果が平等か、満足いくかはわからない。「機会の平等」なら、探し、求めたすべての人が何かを成し遂げられる保証はない。しかし、どんなときも「機会の可能性」の存在は保証される。この日本の全ての人々が等しく夢を見られて、努力して、あるものを追い続けさせるのも、この可能性を大事にしているからだ。C君のように可能性を小さくするのも自由である。しかし、努力して夢に近づく、可能性を大きくするのもあなたの自由なのである。